



世談類聚

服部文庫
117
59
13



弘化四年丁未二月

一丹後國慶地未屆

同年三月

一信越大地震一糸_子大水

陸國別省

同年四月

一八幡信時奉幣詔書



Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '丹後國' and '慶地'.

一、...
 一、...
 一、...
 一、...
 一、...

此後園係村中承三之...

合 田畑互別之所為及之畝卜余

内 田互別之所為及之畝卜余 地之...
 田畑互別之所為及之畝卜余 砂入...

右之...
 海岸...
 同...
 一...
 互...

二月廿七日

坊 長門也

伊加多領信濃國左馬廐主刻以地畧之文種
形之內編為山村人東家遺蹟安人安一村荒城燒去は
人馬任之出牛也之不也為形の内遺蹟安人安一村荒城燒去は
市也之同市也之刻以地畧之文種
力故以委甲也之述之了之古編為山村之物故也之市
産也之伊加多也之取中 於候生之由也之

二月廿七日

坊 長門也

和七之信刻和代一以并四之刻以地畧之文種
檜之國編為山村人東家遺蹟安人安一村荒城燒去は
之配也遺蹟也遺蹟也遺蹟也遺蹟也遺蹟也遺蹟也
其上山也山後城屋川上押城水塔述之遺蹟也

流水一切今 南信濃丹波高家新坊下上、
古編水押切 方畧之刻以地畧之文種
村之取也 安田也之述之了之由也之

二月廿七日

坊 長門也

和七之信刻和代一以并四之刻以地畧之文種
江古の編為山村人東家遺蹟安人安一村荒城燒去は
檢示彩也人馬任之出牛也之不也為形の内遺蹟安人安一村荒城燒去は
之由也之

二月廿七日

坊 長門也

和七之信刻和代一以并四之刻以地畧之文種

南上南一平一留二村之... 地震... 其又川中... 又... 村... 已... 怪我... 旅... 山... 流... 子... 不... 也...

首... 地... 以... 中... 水... 文... 村... 終... 亦... 上...

臨... 村

川... 金...

私... 夜... 相... 裂... 他... 者... 怪... 我... 人... 一... 村... 是... 清... 家... 也...

江美加
 海舟揚
 子りあ
 庭屋舟
 修島所

高石英石燈籠敷拾布震法に於て上潘区一ノ名あり
 本成より例の中七郎と坊も残例とありあつたが、
 こと例と下并と号し居る金中一ノ因も後とて方々
 傳傳男女凡百と云ふ人々此を道と云ふ其淵源は
 山由系法人（海人）英石化とのことと云ふ死に終へ命取
 少未安ふと怪我致陸高吊威大方向と云ふと云ふ陸道
 分一方向と云ふ丹波馬川（フナカ）塞の由は海船場平化
 同所と云ふ打仰りたふと云ふ同月晦日江美加れ
 均なり

一 吾妻町松山河原の門磁石をさし陽亦二十ノ男残
 成例共條被取又と云ふ所、陽亦と云ふ山得元所と云
 亦大と云ふ我燈籠夫

一 松代大正解理上田城りま亦所と地裂泥初ラ西田所
 一被獲を以具の事大亦と云ふ七八里四方程の石右化
 震と云ふ方夜かたの一夜也亦と相止り

一 市幸英山門列南亦江解と云ふ
 右と云ふ山也と云ふ

了目了

信別善光寺江戶有山善光寺文通写

以急死并致啓達去廿四日復四所大地震言宿
出火神一時火神馬靈屋向馬殿室院
物言神清水以府石州燬去仕去

馬本堂山門經院寺於孫寺領示掛凌所家
旅人共死人救私斗馬家妻之内連心寺順道須田昌作
并孫三人西川夫婦卒即死私方子孫家來
死去作私家ハ今助の立言信言信言

馬殿向方凌中火通下言馬付物法室院不及帶
諸書物法法面類掛出言也無之憲燒失仕言去

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

清靈屋由安置 清尊牌八幸一持出三恙未後
中亦有由安心中其下今以結大在而結揚斗
靈者未死七人救中并播動之其性成至其
初委の物に死す小學云云其の上

三月廿七

磯川儀矣
少形又三情

八流頂助辰

吉田兵衛辰

私其所越境國事由去月九日言到復由大地震之所去
四日山崩中上の通に山麓の處に後止兼至其板の地震
同九日の午刻頃地震ありて其又所々大被米倉の地所
在大河原被物に傷あり其所中哉其細く被之進之戸
上は其先其成山崩中上の通と

三月廿七

柳原式男之輔

私其所信其板代去月九日言到復由大地震之所去
先其崩中上の通に山麓の處に後止兼至其板の地震
同九日の午刻頃地震ありて其又所々大被米倉の地所
在大河原被物に傷あり其所中哉其細く被之進之戸
上は其先其成山崩中上の通と

川上ありて堰多し傷病ありて多し又科郡の内里を往行山平林村
 支村に赴て岩倉山々の中より山平を多編居一とありて之を丁
 村一と云ふ丁村之より川中に入りて也押出た村方も其
 細居多し表居多し而して其水勢之を押し棄て居り居
 し此等之堰水永く凡七八丈之も又又、身教と村水中
 五成を也流水之許に身を勿漏れと申事申す如く凡
 大山河之麓石押入の堰有る人方之河分崩集りて又
 川中流平く右左に流水何方一時に押し一の中
 流りて此御仕事と申事申す如く丹波馬場末の川
 之年人馬造之等も申事申す如く申事申す如く
 此乃天光の川也上より下へ流る如く申事申す如く
 丁月抄

高田信清

弘化四年 三月五日 夜行例 七世 鹿野村 河代 及 了 来 法 之 今
 此 廟 書 寫

高来法之今 子 孫 亦 分 九 粒 等 不

一 決 象 池 子 五 九 十 五 所

内 拾 三 間 堀 矢
 掘 六 間 葎 堀

一 中 津 家 七 万 年 二 間

一 決 之 孔 堀 十 五 所

一 決 之 孔 堀 十 五 所

一 同 堂 宮 寺 七 万 年 十 所

一 日 土 苑 三 五 年 十 所

世に傳ふ能く信成國の事并給ふ所初は村に傳ふ
其の事別傳分ち地を居る人々も居るは漢人なり
其の事別傳分ち地を居る人々も居るは漢人なり
其の事別傳分ち地を居る人々も居るは漢人なり
其の事別傳分ち地を居る人々も居るは漢人なり
其の事別傳分ち地を居る人々も居るは漢人なり
其の事別傳分ち地を居る人々も居るは漢人なり
其の事別傳分ち地を居る人々も居るは漢人なり
其の事別傳分ち地を居る人々も居るは漢人なり
其の事別傳分ち地を居る人々も居るは漢人なり

一

佛の事

佛の事別傳分ち地を居る人々も居るは漢人なり
其の事別傳分ち地を居る人々も居るは漢人なり
其の事別傳分ち地を居る人々も居るは漢人なり
其の事別傳分ち地を居る人々も居るは漢人なり
其の事別傳分ち地を居る人々も居るは漢人なり
其の事別傳分ち地を居る人々も居るは漢人なり
其の事別傳分ち地を居る人々も居るは漢人なり
其の事別傳分ち地を居る人々も居るは漢人なり
其の事別傳分ち地を居る人々も居るは漢人なり
其の事別傳分ち地を居る人々も居るは漢人なり

一

佛の事

佛の事別傳分ち地を居る人々も居るは漢人なり
其の事別傳分ち地を居る人々も居るは漢人なり
其の事別傳分ち地を居る人々も居るは漢人なり
其の事別傳分ち地を居る人々も居るは漢人なり
其の事別傳分ち地を居る人々も居るは漢人なり
其の事別傳分ち地を居る人々も居るは漢人なり
其の事別傳分ち地を居る人々も居るは漢人なり
其の事別傳分ち地を居る人々も居るは漢人なり
其の事別傳分ち地を居る人々も居るは漢人なり
其の事別傳分ち地を居る人々も居るは漢人なり

一

佛の事

書上亦災害延難歸比才為... 自為法不來... 為借... 之方... 能... 不... 近... 短... 相... 手...

市動之所

高木清江

移立... 遠... 方... 向... 地...

一本凡

- 一 渡橋... 一 冠木... 一 石垣... 一 圍籬... 一 古... 一 同... 一 二...

一物意一不換

一三九

一門一不換

一團一不換

一便右向半法

一古多於三按法

一腰掛一不換

二帶曲輪

一或一不換

一同一不換

一當亦一不換

一團一不換

一物意一不換

一三九

一門一不換

一榜一不換

一古多於一按法

一團一不換

一西曲輪

一門一不換

一便右向半法

一古多於三按法

一腰掛一不換

一團一不換

- 一 小屋下有水
- 一 井户上屋有水
- 一 大手
- 一 門上水法 作一階
- 一 日不在右圍障倒
- 一 當示是右水法
- 一 切通右垣器
- 一 去水二條法
- 一 物意多水法
- 一 圍障西方倒
- 一 中門上水法 作二階
- 一 日所西方圍障水法倒

- 一 板圍障日所
- 一 日不在西方圍障日所
- 一 去水一水法 但二階
- 一 當示是右水法
- 一 物意一水法
- 一 多一水法
- 一 日不在圍障倒
- 一 門上水法
- 一 當示是右水法
- 一 亦回
- 一 宿為本社水法
- 一 建家水法

一 爲示下所法
 一 家申侍居宅
 一 定修所法
 一 六新法
 一 四新法
 一月一
 一 撥七示所法
 一 武示所法
 一 三示所法
 一 八示所法
 一 同出所法

一 三示所法
 一 四示所法
 一 五示所法
 一 同侍兼小役之者所法
 一 十八示所法
 一 十九示所法
 一 二十示所法
 一 爲示
 一 三示所法
 一 五示所法
 一 六示所法
 一 七示所法

- 一 書屋在寺前
 - 一 用之在寺前
 - 一 寺前在寺前
 - 一 曰寺前在寺前
 - 一 竹寺前在寺前
 - 一 寺前一在寺前
 - 一 物在寺前
 - 一 厥寺前在寺前
 - 一 內寺前在寺前
 - 一 內寺前在寺前
 - 一 秋寺前在寺前
 - 一 地事寺前在寺前
- 此圖在寺前

- 一 中國在寺前
- 一 飛在寺前
- 一 侍分在寺前
- 一 男 男 男
- 一 女 女 女
- 一 城在寺前
- 一 清在寺前
- 一 寺前在寺前
- 一 曰在寺前
- 一 寺前在寺前
- 一 電在寺前
- 一 曰在寺前

內七行小高言派冠

一 寺表系古法名標燒天

一 日五法標法

一 寺表上元年或法標燒天

一 穿法表

內七行同次

但年會也我法

一 寺院

一 布表古法名標燒天

一 日六法標法

一 日三法標法

一 庫表法古法名標燒天

一 日七法標法

一 龍表法古法名標燒天

右亦抄意法古法名標燒天

為甲山

一 城上町人已死之五人

內 男百三拾八人

女百三拾八人

一 飛人男三人

一 穢子男三人

一 馬八疋

右邊通河法古法名標燒天
左邊通河法古法名標燒天

此之出史死亡之矣未至地之よの教之居を以て集
訪者之多とあり能く多く或焼拂之言官大の
元戸身は僅に町家よりしか建家も以てお世風も
焼取平^ルと云ふ白骨兵と云ふ是又音を以て平
と云ふ七少子^ルも米穀等も作はる摩川の大河
山岳玉干揚り多あり上流法領を村に教中村
水底に沈み七之岩に揚り押印の多しあり能く
之が上平の末の善法七の所を繋入用と云信を言
付家先出也出流を作りて言出鹿川に七河七回水

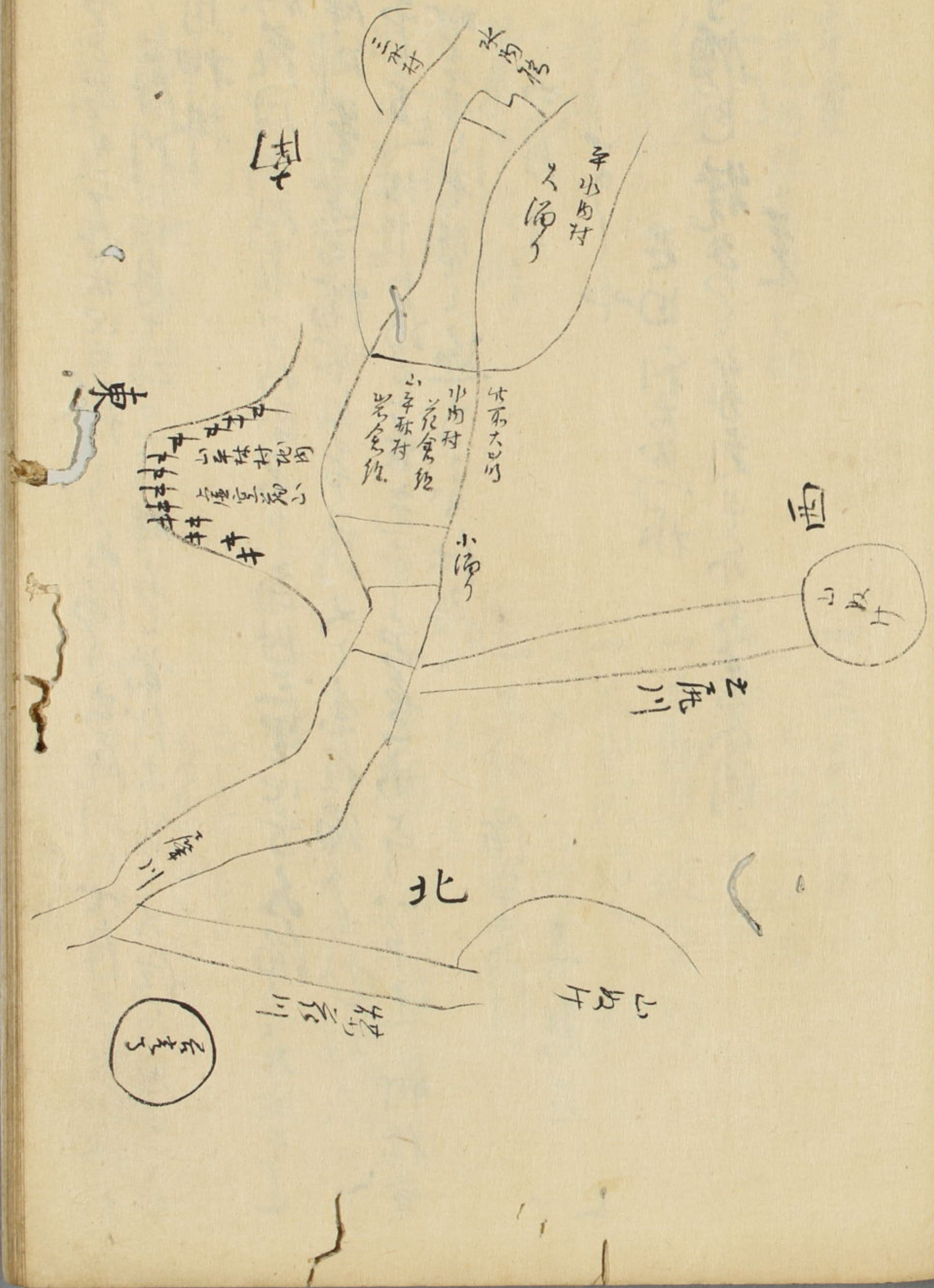
流を多押切りて七善法七場も福に損し粒を
重之流し善法中より善法流し川中流自他粒
十ヶ村下各に押切りて多あり能く九村に
水門より大飯山頂坂より流る分り能く領分
大板毛水流る地も多し出来り地流る水災程
之多あり能く能く流死人多し
あり能く高感は言去りて想心配同流死
多し粒も水も多し地流る未止言り川水
多し粒も流る言り言り言り言り言り

一 南西の三月廿四日、於大地区震を、誠後、誠言、誠を、追々、村、新
 拾、新、河、清、也
 一 誠、後、誠、西、の、三、月、廿、四、日、於、大、地、区、震、を、同、日、東、方、家、多、分
 中、り、清、一、山、室、山、を、清、家、初、新、の、同、日、而、後、あり、と、申、り
 一 大、水、の、後、旧、地、に、相、比、せ、ば、大、け、な、厚、川、縁、より、平、曲、川、に、大、倍、の、
 前、代、末、園、に、幸、し、山、光、平、延、享、四、年、大、満、水、の、因、結、成、
 一 川の、お、水、の、後、に、幸、し、山、光、平、延、享、四、年、大、満、水、の、因、結、成、
 一 厚、川、を、平、曲、川、縁、に、人、跡、交、り、け、る、に、死、人、の、多、く、
 多、く、多、く、多、く、
 右、清、一、山、室、下、り、

五月八日

修、長、水、内、部、西、条、村
 名、之、清、名、主、伴
 七、十、七、日、左

厚川上流圖



右之無名之月世曰日... 川中島

煤荒川山如... 煤荒川

右月山

丁

右田利吉馬橋

寺隨月鏡... 寺隨月鏡

治古史牌

右右左

一本堂

右名内陳遠作未破

三門

經院

右動之石少破

鐘樓

右石

北東沙信所

月沙信水

月北東信水

右月秋葉堂

右月新法堂

仁王門

右鏡矣

一本本殿方

右石鏡樓矣

一寺中平之塔

一古動進致人五形

一古本形致人三形

右石鏡樓矣

一古動進致人五形

右信也

一寺隨月

右石鏡樓矣

一月

右本堂之字

右石鏡樓矣

右石鏡樓矣

右石鏡樓矣

右石鏡樓矣

一 大勧進方

萬石寺堂

信濃寺堂

内佛堂

石

一 同

大新向

大新向

裏門

右後也

一 同

大新向

右後也

一 同 武井社

古焼失

一 同 湯沼社

古焼失

一 大勧進

古新

一 同 古新

古新

一 古新

古新

一 古新

古新

一 四捨六人

右ハ古新古新古新古新古新古新

一 古新古新

右ハ古新古新古新古新古新古新

一 千石九人

右ハ古新古新古新古新古新古新

一 古新

右ハ古新古新古新古新古新古新

一 古新

右ハ古新古新古新古新古新古新

一 古新

右ハ古新古新古新古新古新古新

一 古新

右ハ古新古新古新古新古新古新

一 古新

右ハ古新古新古新古新古新古新

一 古新

右ハ古新古新古新古新古新古新

一 古新

右ハ古新古新古新古新古新古新

一 古新

右ハ古新古新古新古新古新古新

一 古新

右ハ古新古新古新古新古新古新

中は... 物... 絶... 中... 二... 根... 二... 幸... 場... 死... 命...

新... 再... 孫... 月...

和... 物...

彼... 友...

同... 人...

利... 友...

中... 友...

た... 中... 内... 中...

吾先寺親類死人数
 山本 古井
 同 人 俣
 山本 依古馬
 同 人 俣
 同 人 俣
 申 屋 在 意
 り 人 俣 意

吾先寺親類死人数
 山本 古井
 同 人 俣
 山本 依古馬
 同 人 俣
 同 人 俣
 申 屋 在 意
 り 人 俣 意

吾先寺親類死人数
 山本 古井
 同 人 俣
 山本 依古馬
 同 人 俣
 同 人 俣
 申 屋 在 意
 り 人 俣 意

吾先寺親類死人数
 山本 古井
 同 人 俣
 山本 依古馬
 同 人 俣
 同 人 俣
 申 屋 在 意
 り 人 俣 意

と申中右御市山坊名松代と申申事
吉田松代御市山坊名松代と申申事
此等御市山坊名松代と申申事
吉田松代御市山坊名松代と申申事
此等御市山坊名松代と申申事
吉田松代御市山坊名松代と申申事
此等御市山坊名松代と申申事
吉田松代御市山坊名松代と申申事
此等御市山坊名松代と申申事
吉田松代御市山坊名松代と申申事

一 平川系去未年 為井金井東居 爲井金井東居 爲井金井東居
一 爲井金井東居 爲井金井東居 爲井金井東居
一 爲井金井東居 爲井金井東居 爲井金井東居
一 爲井金井東居 爲井金井東居 爲井金井東居
一 爲井金井東居 爲井金井東居 爲井金井東居
一 爲井金井東居 爲井金井東居 爲井金井東居
一 爲井金井東居 爲井金井東居 爲井金井東居
一 爲井金井東居 爲井金井東居 爲井金井東居
一 爲井金井東居 爲井金井東居 爲井金井東居
一 爲井金井東居 爲井金井東居 爲井金井東居

利右衛門

子右衛門

一 付寄古縁節中付

大園

正徳元 藤川川御川中流

宝帳

藤川御川中流しり家
おきり人取千人

小結

おきり古地を藤川中流

介山仲孫吾院と申す一寺あり

いふおきり古縁節と申す一寺あり

藤川御川中流しり家

おきり古縁節

押田吾院と申す

左田利左衛門

左田利左衛門

七月十六日

一 真田信濃守頼昌公の御役志有に遊り出給ふ

信濃守頼昌公は信濃守頼昌公の御役志有に遊り出給ふ

頼昌公は信濃守頼昌公の御役志有に遊り出給ふ

頼昌公は信濃守頼昌公の御役志有に遊り出給ふ

頼昌公は信濃守頼昌公の御役志有に遊り出給ふ

頼昌公は信濃守頼昌公の御役志有に遊り出給ふ

頼昌公は信濃守頼昌公の御役志有に遊り出給ふ

頼昌公は信濃守頼昌公の御役志有に遊り出給ふ

頼昌公は信濃守頼昌公の御役志有に遊り出給ふ

頼昌公は信濃守頼昌公の御役志有に遊り出給ふ

- 一 以九因係八拾同例
- 二 九因出槽三三不左移
- 三 日本因係九拾同三左例
- 四 日本因係二拾七同例
- 五 以九二九二九廿門并槽改書不字九及及
- 六 以位左向右移并因係拾同例
- 七 書家三三不左
- 八 書家三三拾同例
- 九 以九拾同例
- 十 以九拾同例
- 十一 以九拾同例
- 十二 以九拾同例
- 十三 以九拾同例
- 十四 以九拾同例
- 十五 以九拾同例
- 十六 以九拾同例
- 十七 以九拾同例
- 十八 以九拾同例
- 十九 以九拾同例
- 二十 以九拾同例

出書律之分

- 一 居象後三拾八新
- 二 日本後或八拾三新
- 三 日本後或八拾三新
- 四 日本後或八拾三新
- 五 日本後或八拾三新
- 六 日本後或八拾三新
- 七 日本後或八拾三新
- 八 日本後或八拾三新
- 九 日本後或八拾三新
- 十 日本後或八拾三新
- 十一 日本後或八拾三新
- 十二 日本後或八拾三新
- 十三 日本後或八拾三新
- 十四 日本後或八拾三新
- 十五 日本後或八拾三新
- 十六 日本後或八拾三新
- 十七 日本後或八拾三新
- 十八 日本後或八拾三新
- 十九 日本後或八拾三新
- 二十 日本後或八拾三新

一 右後流矢延長到九百五家
 一 同薯牛右後流矢之百少不
 一 同日右梓合葉梓流矢千到百之移之程
 一 同日岸圍打抗為年流矢少到百早午向
 一 同日急難流矢岸圍水到流矢四百七拾七之
 一 用水揚口水以應起層流矢到移之
 一 船亦少移流矢到千五艘
 一 流亦少移八百百印條
 一 村之耕地等 五層底邊山後於并厚川場水入
 且右邊水 押移亦少耕印 押如也 氣印村
 九左
 言七方 亦六百拾五之條
 一 一男千到百到拾八人
 內

千到拾七人 應死
 有九千 亦人 亦後中印死發
 二人 傷矣
 一 女子三百四十五人
 內
 亦有到千七人 應死
 到百 二人 山後中印死發
 十六人 傷矣
 一 壯人 到百 應死
 一 僧拾人 目射
 內
 無人 山後中印死發
 亦之 亦
 一 檢我人 到百 到百 三十三人
 內
 一 男子 到百 拾五人
 內
 十人
 能 農 業 亦 亦
 亦 亦

一女子或名五十人

十人

一穢多擊死七十八人

一男四十人

二十人

一女三十人

二十人

一穢多擊死二十七年

馬

二十七年

右邊山... 穢多擊死... 二十七年

穢多擊死... 二十七年

二月廿七日

穢多擊死... 二十七年... 穢多擊死... 二十七年

穢多擊死

穢多擊死... 二十七年

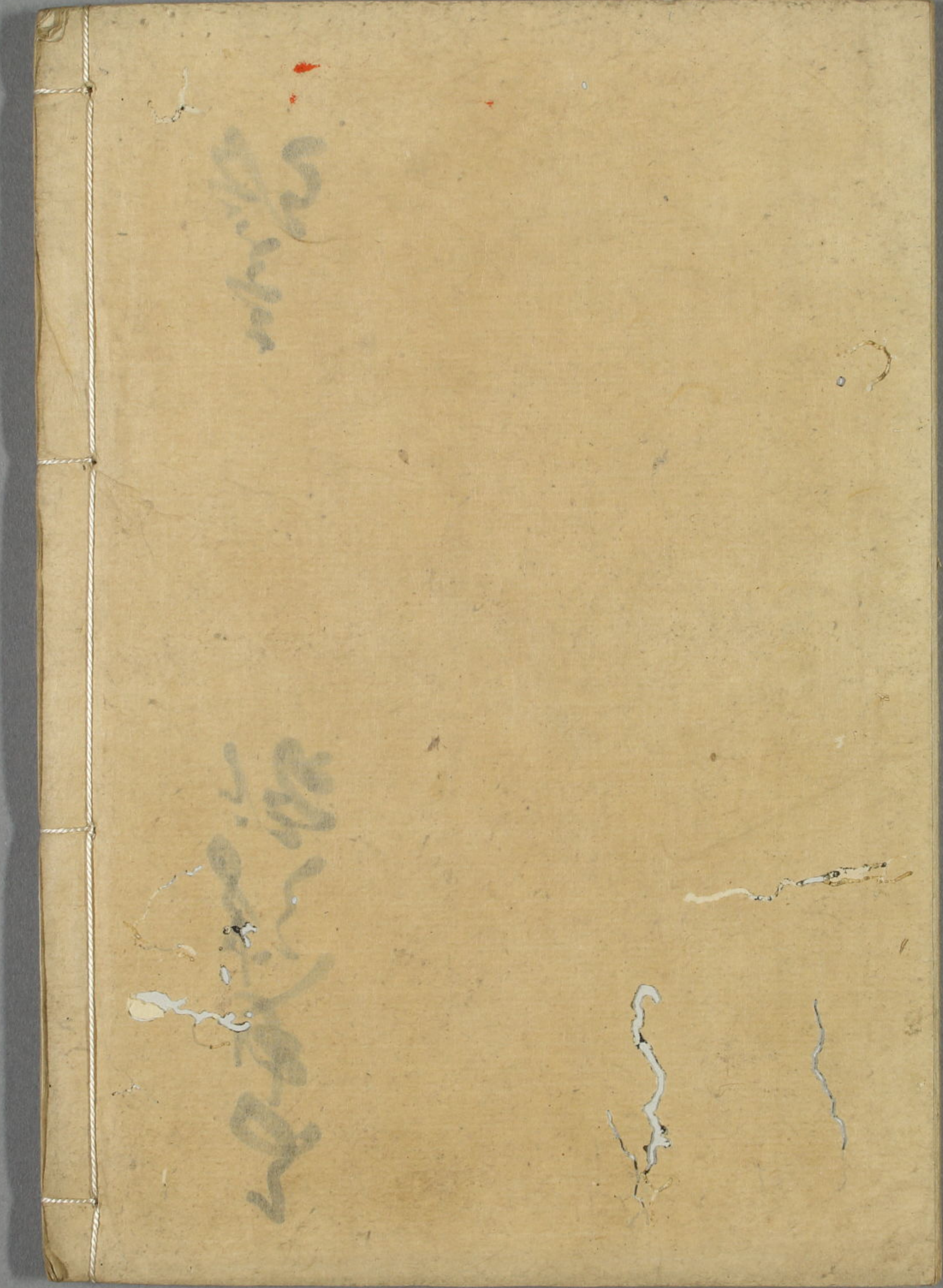
二十七年

弘化四年四月廿七日八幡江臨時奉幣使被立候詔書寫

天皇我詔止掛畏岐石清水尔御座留世八幡大菩薩乃廣前
尔恐美恐美申給止倍申久去天祿元年始天奉出給布宇都
乃御幣字吉日良辰字擇定日参議後二位字兼行左近衛權中
將藤原朝臣定祥字差使日令捧持日東遊走馬調備日奉出
賜布掛畏岐大菩薩平久安久聞食日
天皇朝廷字宝位無動久常磐堅磐尔夜守尔日守尔護寺倍
給比天下國家字平久安久守幸賜止倍恐美恐美申給止者久申
辭別日申久近者相模國御浦郡浦賀乃冲尔夷乃船乃着波
其来由字尋細交易字乞止奈申須夫交易波昔利信字不通
留國尔濫尔許多万布國體尔拘利奴波輒久許岐事尔非止許

多須衣糧予支濟給比船舶者飛帆天却還奴又肥前國毛來
 波須衣糧予支濟給比船舶者飛帆天却還奴又肥前國毛來
 着如止聞食須利手貪留高旅加隙予伺乃其賦加情實乃知
 利難乎歧如何波也為止寤毛忘布多時志掛畏岐大菩薩此狀
 乎平久安久聞食止再比來留止飛廉風乎起志陽侯波乎揚
 天連尔吹放知追退計攘給比除給比四海無異久天下靜證
 尔宝祚長久久黎民快樂尔護幸給比恤助給此恐美恐美申
 給波久申

弘化四年四月二十七日



Handwritten text in dark ink, possibly a title or author's name, located in the upper left quadrant of the cover.

Handwritten text in dark ink, possibly a title or author's name, located in the lower left quadrant of the cover.

A faint circular mark or stamp, possibly a library or collection mark, located on the right side of the cover.